

C H U B U P R O J E C T

2 | 観光・交流・
教育・イベント

立山黒部ジオパーク

立山黒部ジオパーク

問い合わせ先

立山黒部ジオパーク協会
〒930-0856 富山県富山市牛島新町5番5号 タワー111ビル1階
TEL 076-431-2089

プロジェクトホームページ

<http://tatekuro.jp>

■所在地

富山県東部
(富山市、魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、
上市町、立山町、入善町、朝日町)

■事業主体

立山黒部ジオパーク協会
立山黒部ジオパーク支援自治体会議

■進捗状況

事業実施中

■事業費

1,500万円

● 今後の展望・課題

世界ジオパークの認定に向けて、立山黒部ジオパーク協会と立山黒部ジオパーク支援自治体会議が協調しながら、推進事業や環境整備などを行っていく。

● 事業の背景・目的

富山県東部に広がる地質的資源とそれに関連する生態系および文化的資源を保護・保全しながら持続可能な形で活用することによって、地域の活性化への寄与や、ふるさと学習の向上、防災教育などを進める。

● プロジェクトの特徴・効果

住民や自然活動団体、産業界、学界が作る民間主体の立山黒部ジオパーク協会が主導することにより、経営感覚と住民の視点をもった事業の即効性が期待できる。また、富山県東部の自治体首長からなる立山黒部ジオパーク支援自治体会議は新しい枠組みとなり、広域連携が一層進められる。

● 計画の概要

富山県東部をエリアとする立山黒部ジオパークは、38億年の大地の歴史と、富山湾から立山連峰までの4,000mの高低差を持ち、氷河や多雪、急流河川、湧水などのダイナミックな水循環を一望できる地域。大地・自然・人が織りなす不思議と感動を共に守りながら、積極的に伝える活動を行っている。

● 関連事業制度

日本ジオパークネットワーク

● 事業の経緯

平成25年1月 立山黒部地域においてジオパーク推進活動開始

平成26年3月 立山黒部ジオパーク支援自治体会議設置

平成26年8月 日本ジオパーク認定

夢を乗せて、未来へ走る 北アルプスゴールデンルート

北アルプスゴールデンルート

問い合わせ先

富山県土木部道路課
〒930-8501 富山県富山市新総曲輪 1-7
TEL 076-444-3319

プロジェクトホームページ

<http://www.pref.toyama.jp/sections/1501/ki/golden.htm>

■所在地

富山県富山市～岐阜県高山市
～長野県松本市～新潟県糸魚川市

■事業主体

富山県、岐阜県、長野県、新潟県

■進捗状況

事業実施中（一部計画・構想中）

■完成目標・時期

未定

■事業規模

L = 約 330km

●事業の経緯

【富山高山連絡道路】

- ・1994年12月 富山高山連絡道路（約80km）基本計画決定
- ・1996年8月 富山高山連絡道路 猪谷楡原道路（約7km）整備計画決定
- ・1997年度 富山高山連絡道路 猪谷楡原道路（約7km）事業着手
- ・2010年11月 猪谷楡原道路 庵谷～楡原間（約3km）供用開始
- ・2014年3月 富山高山連絡道路 大沢野富山南道路（約12km）整備計画決定
- ・2014年度 富山高山連絡道路 大沢野富山南道路（約12km）事業着手

【中部縦貫自動車道】

- ・1989年8月 安房峠道路（約6km）整備計画決定
- ・1989年8月 中部縦貫自動車道 高山清見道路（約25km）基本計画決定
- ・1991年12月 松本波田道路（約5km）基本計画決定
- ・1992年度 中部縦貫自動車道 高山清見道路（約25km）事業着手
- ・1993年7月 中部縦貫自動車道 高山清見道路（約25km）整備計画決定
- ・1996年度 松本波田道路（約5km）事業着手
- ・1997年12月 安房峠道路（約6km）供用開始
- ・2000年4月 松本波田道路（約5km）整備計画決定

【松本糸魚川連絡道路】

- ・1998年6月 松本糸魚川連絡道路（約100km）基本計画決定

●今後の展望・課題

- ・事業実施中区間の整備促進
- ・計画、調査区間の早期事業化

●事業の背景・目的

- ・富山、岐阜、長野、新潟の4県を結ぶとともに、北アルプスを囲む交流圏を形成し、観光や工業など地域産業の活性化、地域の振興に大きく寄与するものと期待。また、道路交通の信頼性が高く、高速性に優れた幹線道路網が確立される。

●プロジェクトの特徴・効果

- ・世界的な山岳景観を有する北アルプスを中核とした広域観光ルートが形成される。
- ・各都市間の時間距離が短縮されるとともに、周遊時間が大幅に短縮される。
- ・災害に強く、安全で快適に通行できる。
- ・太平洋側における災害時の代替ルートが確保される。

●計画の概要

北陸自動車道・富山高山連絡道路・中部縦貫自動車道（一部）・松本糸魚川連絡道路を活用した広域観光ルートの整備

兼六園と一体となった県都金沢のシンボル公園

金沢城公園整備事業

問い合わせ先

石川県土木部公園緑地課
〒921-8580 石川県金沢市鞍月 1-1
TEL 076-225-1771

プロジェクトホームページ

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kouen/siro/kanazawajyo/html>

● 事業の背景・目的

金沢城の重要な歴史的文化的遺産を後世に継承し、都心部に残された貴重な自然環境の保全を図りながら、兼六園と並ぶ県都金沢のシンボルとなる公園を整備するとともに、都心地区の活力の源となり、新たな賑わいの創出と魅力の向上に寄与することを目指す。

● プロジェクトの特徴・効果

特徴 ・ 史実に沿った本物志向の復元整備
・ 公園機能との調和、ハード・ソフト両面にわたる利活用促進の取り組み

効果 これまでの整備により、県内外から多くの来園者が訪れるなど、本県を代表する歴史文化の観光交流拠点として、地域の魅力向上に寄与している。

● 計画の概要

平成 26 年度までの二期にわたる事業を踏まえ、金沢城公園のさらなる価値と魅力向上のため、鼠多門、鼠多門橋の復元整備や展示休憩機能の充実等を柱とする第三期整備計画に基づき、県都金沢のシンボル空間として整備を進める。

● 関連事業制度

社会資本整備交付金（都市公園事業）
金沢市歴史的風致維持向上計画（歴史まちづくり法）
文化財保護法（国指定史跡、重要文化財）

■ 所在地

石川県金沢市

■ 事業主体

石川県

■ 進捗状況

事業実施中

■ 事業費

総合公園：事業面積 25.9ha
（都市計画事業認可）
供用面積 24.3ha
（H27 年 3 月現在）

● 事業の経緯

1996 年 金沢大学跡地を国から取得、都市公園として整備を開始
2001 年 菱櫓・五十間長屋・橋爪門続櫓を復元、都市公園として供用
2008 年 金沢城跡として国史跡に指定
2010 年 河北門復元、いもり堀部分復元（水堀化）
2015 年 橋爪門復元（二の門・土塀）、玉泉院丸庭園整備

● 今後の展望・課題

金沢城公園のさらなる価値と魅力向上のため、鼠多門、鼠多門橋の復元整備や展示休憩機能の充実等を柱とする第三期整備計画に基づき、県都金沢のシンボル空間として整備を進める。

■ 玉泉院丸庭園ライトアップ



■ 菱櫓・五十間長屋・橋爪門



福井しあわせ元気国体・ 福井しあわせ元気大会

問い合わせ先

福井県 国体推進局企画広報課
福井県福井市大手町 3 丁目 17 番 1 号
TEL.0776-20-0772

プロジェクトホームページ

<http://www.pref.fukui.lg.jp/doc/024610/kokutaitop2015.htm>

■所在地

福井県福井市大手 3 丁目 17 番 1 号

■事業主体

福井県 国体推進局企画広報課

■完成目標・時期

2018 年開催

● 計画の概要

福井しあわせ元気国体（第 37 回国民体育大会）

福井しあわせ元気大会（第 18 回全国障害者スポーツ大会）の開催

「恐竜はどこにいたのか？ 大地が動き、大陸から勝山へ」

恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク

問い合わせ先

恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会事務局
〒911-8501 福井県勝山市元町1丁目1-1 勝山市役所内
TEL 0779-88-1111

プロジェクトホームページ

<http://www.city.katsuyama.fukui.jp/geopark/>

■所在地

福井県勝山市全域

■事業主体

恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会

■進捗状況

事業実施中

■完成目標・時期

完成時期の設定なし

■事業費・事業規模

2,578万円（平成27年度予算額ベース）
253.88平方キロメートル

● 関連事業制度

わがまち魅力発酵事業（市民によるまちづくり活動への助成制度）
かつやまふるさと検定

● 事業の経緯

恐竜溪谷ふくい勝山ジオパークは、2009年10月に日本ジオパークネットワーク正会員として認定され、4年間の活動を経た2013年11月に再認定審査を受けたが、2年間の条件付きでの再認定という評価が下り、その後、市民・行政・ジオパーク関係者が付された条件に対する改善について協議を重ねてきた。その協議を経て、2015年度からこれまで行われてきた市民によるまちづくりの推進力である、エコミュージアム活動をベースにジオパーク活動として、ジオを中心としたさらにスケールの大きいまちづくり活動に発展させている。

● 今後の展望・課題

ジオパーク上に存在する地球活動によりもたらされた地形・地質を指すジオ多様性、生物多様性、そして勝山に暮らす人々が築いてきた文化の多様性を住民、組織、行政などが協働して保全・保護し、次世代を担う子ども達を中心とした地域住民への教育普及や魅力あるジオツーリズムに活用することにより、地域の持続可能な社会的・経済的な開発を目指す。

● 事業の背景・目的

勝山市がまちづくりの手法として取り組んだきた、エコミュージアムによるまちづくり活動で培ってきた市民力、地域力をより将来に向けて展開させるため、ジオパークの手法によるまちづくりを推進することにより、勝山の自然や歴史文化などを確実に保全し、地域を知り学び、活用して、地域アイデンティティの形成と持続可能な地域の発展を目指す。

● プロジェクトの特徴・効果

まちづくりの手法としてジオパークを取り入れることによって、市民自らが、これまでのまちづくり活動で発見・再発見した地域遺産に、科学的・学術的根拠を付加できるようになり、より地域の価値創出及び市民の地域への愛着と自信、誇りの向上が期待できる。

また、後世に勝山市の自然や遺産、歴史といったものを残すための保全活動や子どもたちを中心とした教育普及活動が推進される。

● 計画の概要

日本一の恐竜化石発掘地である勝山市の全域をエリアとするジオパーク。恐竜化石をはじめとする勝山市の豊かで多様な地質、地形遺産をはじめ、勝山市の魅力在全国にアピールするとともに、訪れる人々が地球活動の遺産を目で見て肌で感じる事ができるジオパークを目指している。

国宝松本城と城下町の歴史を活かした、水と緑とにぎわいのあるまちづくり

松本城南・西外堀復元事業

問い合わせ先

松本市教育委員会松本城管理事務所
〒390-0873 長野県松本市丸の内4-1
TEL 0263-32-2909

プロジェクトホームページ

所在地

松本市大手、城西

事業主体

松本市教育委員会 松本城管理事務所
松本市建設部城下町整備本部

進捗状況

事業実施中

事業費・事業規模

総事業費約 44 億円
事業面積約 11,000㎡

まちづくり計画イメージ



鳥瞰図



イメージスケッチ



● 事業の背景・目的

大正～昭和初期に埋め立てられた松本城南・西外堀の復元と、その南側に隣接する都市計画道路の整備を一体的に実施し、国宝松本城と城下町の歴史を活かした水と緑とにぎわいのあるまちづくりを目指すもの。

● プロジェクトの特徴・効果

史跡整備と都市計画道路の整備を一体的に行い、松本城を中心としたまちづくりを推進するもの。

● 計画の概要

史跡松本城南・西外堀復元事業と隣接する都市計画道路内環状北線整備事業を一体的に実施するもの。

● 関連事業制度

都市計画道路内環状北線整備事業

● 事業の経緯

平成 11 年度 史跡松本城整備基本計画「松本城およびその周辺整備計画」の策定

平成 24 年度 事業用地の史跡松本城への追加指定（現在まで継続実施）

平成 25 年度 事業用地取得に着手

● 今後の展望・課題

権利関係者の同意が得られた事業用地について順次史跡追加指定及び用地取得に取り組んでおり、今後発掘調査を実施した上で史実に基づいた堀の復元を行う。

高い山、深い谷が育む生物と文化の多様性

南アルプスユネスコエコパークの推進

問い合わせ先

南アルプス市ユネスコエコパーク推進室
〒400-0395 南アルプス市小笠原 376
TEL 055-282-7261

静岡市環境局環境創造課エコパーク推進係
〒420-8602 静岡市葵区追手町 5-1
TEL 054-221-1357

プロジェクトホームページ

<http://minami-alps-br.org/>
(南アルプスユネスコエコパーク公式サイト)

■所在地

南アルプスとその麓の地域

■事業主体

静岡県：静岡市、川根本町
山梨県：韮崎市、南アルプス市、北杜市、早川町
長野県：飯田市、伊那市、富士見町、大鹿村

■進捗状況

事業実施中

■完成目標・時期

平成26年6月登録、
10年ごとにユネスコへ定期報告

■事業費・事業規模

各市町村において予算を確保。
総面積：302,474ha
核心地域：24,970ha、
緩衝地域：72,389ha、
移行地域：205,115ha)

●事業の経緯

- 2007年2月 「南アルプス世界自然遺産登録推進協議会」設立
- 2010年5月 「ユネスコエコパーク推進部会」設置
- 2011年7月 「ユネスコエコパーク登録検討委員会」設置
- 2013年8月 「南アルプスユネスコエコパーク基本合意書」締結
- 2013年9月 ユネスコエコパーク国内推薦決定
- 2014年6月 南アルプスユネスコエコパークの登録決定

●今後の展望・課題

各市町村において、総合計画や個別計画に南アルプスユネスコエコパークの取組を位置づけるとともに、10市町村全体のユネスコエコパーク管理運営計画を策定する必要がある。

●事業の背景・目的

平成19年2月、南アルプスの顕著で普遍的な価値を高め、人類共有の財産とすべく、南アルプス世界自然遺産登録推進協議会を設置、以来、南アルプスの優れた自然環境を保全し、将来へと継承していくための活動に取り組んできた。

10市町では、南アルプスの自然環境と多様な文化のつながりを共有の財産と位置づけ、地域間交流の拡大を図るとともに、優れた自然環境の持続的かつ永続的な保全管理と利活用に共同で取り組むことによって、自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを行う。

●プロジェクトの特徴・効果

本プロジェクトは、10の市町村が共同で実施。

自然環境の保全、調査・教育、地域の持続的な発展に係る事業へ各市町村及び10市町村全体で取り組んでおり、地域間交流の拡大や自然の恩恵を活かした魅力ある地域づくりを目指している。

●計画の概要

10市町村が連携し、南アルプスユネスコエコパークの普及啓発に取り組むとともに、自然環境の保全の分野等において、統一ルールの策定を進めている。

信長の鼓動が聞こえる歴史公園

岐阜公園再整備事業

問い合わせ先

岐阜市都市建設部歴史まちづくり課
〒500-8701 岐阜市今沢町18
TEL 058-214-4596

プロジェクトホームページ

<http://www.city.gifu.lg.jp/17421.htm>

■所在地

岐阜公園

■事業主体

岐阜市

■進捗状況

計画・構想中

■完成目標・時期

平成36年3月(予定)

■事業規模

約33.5ha

●事業の背景・目的

岐阜公園周辺には、長良川鶴飼や岐阜まつりなどの伝統的な活動などの歴史的風致が多く残されている。その重要拠点である岐阜公園を信長公居館跡等の歴史的価値を伝えるとともに、憩い・学習・交流等の拠点となる本格的な歴史公園へと再整備する。

●プロジェクトの特徴・効果

基本方針

- ・信長公が活躍した戦国時代の歴史的価値の顕在化
- ・歴史的価値を学習するための施設整備
- ・近代（明治から昭和初期）の歴史的資産や自然と調和した都市公園としての整備

●計画の概要

岐阜公園が持つ歴史的な価値と豊かな自然環境を活かした歴史公園として再整備を行う。

●関連事業・制度

岐阜公園再整備事業に先立ち、岐阜公園三重塔修復整備工事を実施している。

●事業の経緯

岐阜公園の再整備を行うために、公園区域の拡大を行った。（平成26年8月）

●今後の展望・課題

公園拡大区域における用地取得の促進

障がい者支援の拠点「ぎふ清流福祉エリア」の整備

ぎふ清流福祉エリアの整備

問い合わせ先

岐阜県 健康福祉部 障害福祉課
〒500-8381 岐阜県岐阜市数田南 2-1-1
058-272-8314

プロジェクトホームページ

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kodomo/shogaisha/horei/11226/seiryuarea.html>

● 事業の背景・目的

障がい者のための福祉、医療、教育、文化芸術、スポーツ及び就労施設を一体的に整備し、本エリアを拠点として、障がい者支援を展開する。

● プロジェクトの特徴・効果

障がい者支援の拠点整備

● 計画の概要

障がい者支援の拠点として、以下の施設整備を進める。

<整備施設> 岐阜県障がい者総合相談センター、希望が丘こども医療福祉センター、岐阜希望が丘特別支援学校、ぎふ清流文化プラザ、岐阜県福祉友愛プール、障がい者用体育館、岐阜県中央子ども相談センター、岐阜県障がい者総合就労支援センター（仮称）

● 事業の経緯

<施設の供用開始状況>

平成 27 年 4 月 1 日 岐阜県障がい者総合相談センター

平成 27 年 9 月 1 日 希望が丘こども医療福祉センター、岐阜希望が丘特別支援学校

平成 27 年 9 月 23 日 ぎふ清流文化プラザ

■所在地

岐阜県岐阜市早田、則武、鷺山地域

■事業主体

岐阜県 健康福祉部 健康福祉政策課

■進捗状況

整備中

■完成目標・時期

2019 年度

■事業費・事業規模

概算事業費：約 140 億円

事業敷地：約 7ha

● 今後の展望・課題

<今後の整備施設の供用開始予定>

平成 28 年中 岐阜県福祉友愛プール

平成 29 年中 障がい者用体育館

平成 30 年中 岐阜県中央子ども相談センター

平成 31 年度 岐阜県障がい者総合就労支援センター（仮称）



■障がい者用体育館



■岐阜県福祉友愛プール

総計画面積 6,100ha の 大規模レクリエーション公園

国営木曾三川公園

問い合わせ先

国土交通省中部地方整備局建政部都市整備課公園係
〒460-8514 愛知県名古屋市中区三の丸 2-5-1
TEL 052-953-8573

プロジェクトホームページ

<http://kisosansenkoen.jp/>
<http://www.cbr.mlit.go.jp/kensei/contents04.html>

● 事業の背景・目的

- ・国営木曾三川公園は、東海地方の人々のレクリエーション需要の増大と多様化に応えるため、木曾川、長良川、揖斐川の広大なオープンスペースを活用したイ号公園※である。
- ・公園区域は、岐阜、愛知、三重県にまたがり、各地区ごとに特徴ある整備と質の高い運営を行うことで沿川流域の活性化を進めようとするものである。

※イ号公園…一の都府県の区域を超えるような広域の見地から設置する都市計画施設である公園又は緑地。

● プロジェクトの特徴・効果

- ・来園者が木曾三川の流れに親しみ、地域に対する意識を高め、人々の融和と地方に対する愛着を深める場となる。
- ・河川環境への関心を高めるとともに、この地域の歴史的遺産を後世に伝え、治水を始めとする河川と人との関わりやその重要性を認識する場となる。
- ・全国の人々に幅広いレクリエーションの場を提供し、東海地方とそこに住む人々を理解し、連帯を深める場となる。
- ・1980年度から事業着手し、1987年10月に木曾三川公園センターを一部供用開始して以来、2009年11月には累計入園者数1億人を達成。都市計画決定面積約6,100haのうち、約288haを供用（2016年1月末現在）し、年間入園者は約989万人（2014年度実績）となっている。

■所在地

岐阜県、愛知県、三重県

■事業主体

国土交通省

■進捗状況

事業中

■事業費

全体事業費：822億円

● 計画の概要

・対象区域

全体面積約 6,100ha 総延長 107km

・概要と地区別拠点

国営木曾三川公園は岐阜・愛知・三重の三県にまたがる広大な区域となっているため、全体を上流より三派川地区・中央水郷地区・河口地区の3地区に分けて地域の特徴を生かした整備を行っている。

<三派川地区>

フラワーパーク江南、かさだ広場・各務原アウトドアフィールド、河川環境楽園（木曾川水圏）、138タワーパーク

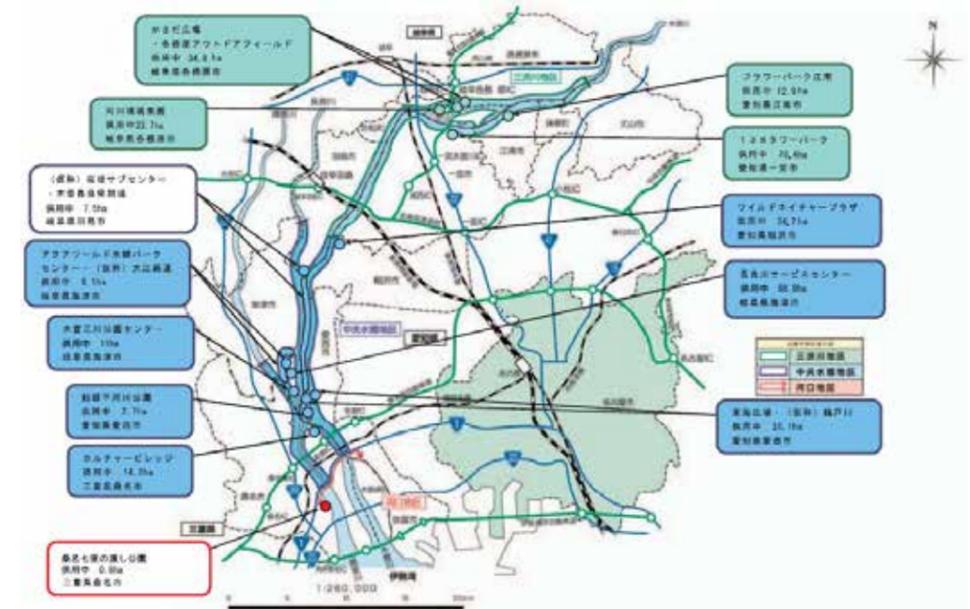
<中央水郷地区>

ワイルドネイチャープラザ、桜堤サブセンター・木曾長良背割堤、長良川サービスセンター、アクアワールド水郷パークセンター・(仮称)大江緑道、木曾三川公園センター、東海広場・(仮称)鶴戸川、船頭平河川公園、カルチャービレッジ

<河口地区>

桑名七里の渡し公園

■ 国営木曾三川公園・概要図



■ 138タワーパーク



■ 木曾三川公園センター



● 事業の経緯

- 1976年 5月 東海三県一市知事市長会議で「木曾三川公園構想」提示
- 1979年 12月 「木曾三川国営公園基本構想」を策定
- 1984年 3月 「国営木曾三川公園基本計画」策定
- 1987年 10月 「木曾三川公園センター」一部開園
- 1988年 7月 「かさだ広場」一部開園
- 1990年 4月 「東海広場」一部開園
- 1992年 4月 「アクアワールド水郷パークセンター」一部開園
- 1995年 4月 「138タワーパーク」一部開園
- 1996年 5月 「カルチャービレッジ」一部開園
- 8月 「ワイルドネイチャープラザ」一部開園
- 1999年 7月 「河川環境楽園・木曾川水圏」一部開園
- 2000年 10月 「長良川サービスセンター」一部開園
- 2002年 4月 「船頭平河川公園」一部開園
- 2005年 3月 「各務原アウトドアフィールド」一部開園
- 2007年 10月 「フラワーパーク江南」一部開園
- 2015年 3月 「桜堤サブセンター」一部開園
- 11月 「桑名七里の渡し公園」一部開園

● 今後の展望・課題

- ・開園エリアの整備促進を図り、早期の全面開園を目指す。
- ・公園全体の整備運営に関してボランティア・NPOとの協働、沿川自治体、関連事業者との連携を今後も定期的、継続的に実施しつつ、利用者の声も取り入れ、自然環境の保全・再生や拠点間のネットワークに向けた具体的な検討を進める。
- ・より質の高い整備運営のために
 - ①施設の整備運営にあたり、利用者の安全確保とユニバーサルデザインに努める。
 - ②施設のデザインは、公園全体の一体感に配慮しながら、自然環境や周辺の景観、地域の歴史文化的背景との調和を図る。
 - ③園内で発生する剪定枝や刈草等のリサイクル、自然エネルギーの活用、環境に配慮した製品の導入に努め、環境負荷の軽減を図る。
 - ④今後の整備運営にあたっては、既存施設の有効利用や維持管理の効率化等によりさらなるコスト縮減を図る。

世界遺産富士山の後世継承

富士山世界遺産センター（仮称）

問い合わせ先

静岡県文化・観光部文化局 世界遺産センター整備課
〒420-8601 静岡県静岡市葵区追手町9-6
TEL 054-221-3657

プロジェクトホームページ

http://www.pref.shizuoka.jp/bunka/bk-150/sekai_112-1.html

● 事業の背景・目的

富士山に係る包括的な保存管理の拠点とするとともに、富士山の自然、歴史・文化に加え周辺観光等の情報提供を行うなど、訪れる多くの人のニーズに対応する拠点として世界遺産センターの整備を進める。

● プロジェクトの特徴・効果

- ・富士山をはじめとする世界の山岳文化に関する調査研究を展開し、その成果を「守る、伝える、交わる、究める」の4つのコンセプトに基づく様々な事業に反映させる。
- ・センターの事業活動を通じ、富士山を守り伝える意識を醸成し、富士山の後世への継承を推進する。

● 計画の概要

- ・ 予定事業
- 【守る】世界遺産ガイド等の人材養成 等
- 【伝える】映像等を活用した常設展示及び研究員の研究成果等を活かした企画展示の開催、研究員等が講師となる出前講座の開催 等
- 【交わる】学術シンポジウムの開催、富士山に関連するイベントの開催 等
- 【究める】日本史、美術史、考古学等を専門とする研究員による調査研究の実施 等
- ・ 諸室構成
- 常設展示室、企画展示室、映像シアター、富士山ライブラリー、研修室等を配置

■所在地	静岡県富士宮市宮町
■事業主体	静岡県
■進捗状況	建設工事着手（平成28年3月末頃予定）
■完成目標・時期	平成29年10月末頃
■事業費・事業規模	事業費：43億円程度 敷地面積：約7,000㎡ 整備面積：約6,200㎡ 延床面積：約3,600㎡

● 事業の経緯

- 平成23年度 基本構想策定
- 平成24年度 基本計画策定
- 平成25年度 建築地及び建築設計者選定
- 平成26年度 建築及び展示設計

● 今後の展望・課題

施設整備を着実に進めるとともに、開館に向けて、調査研究体制や管理運営体制の構築を進める。

■ <富士山世界遺産センター（仮称）（静岡県）の外観イメージ>



■ <富士山世界遺産センター（仮称）（静岡県）の展示イメージ>



翼をひろげ、泉をさがそう
世界のアートと旅する芸術祭

あいちトリエンナーレ 2016

問い合わせ先

愛知県県民生活部文化芸術課国際芸術祭推進室
〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2
TEL 052-971-6111

プロジェクトホームページ

<http://aichitriennale.jp/>

● 事業の背景・目的

- ・新たな芸術の創造・発信により、世界の文化芸術の発展に貢献する。
- ・現代芸術等の普及・教育により、文化芸術の日常生活への浸透を図る。
- ・文化芸術活動の活発化により、地域の魅力の向上を図る。

● プロジェクトの特徴・効果

- ・あいちトリエンナーレは、3年に1度、愛知県で開催される国内最大級の国際的な現代アートの祭典である。
- ・現代美術に加えて、ダンス・演劇・オペラなどの舞台美術を同時展開する。
- ・まちなかでの作品展示やさまざまな普及教育プログラムがあることも大きな特色である。"

● 計画の概要

- 【名称】 あいちトリエンナーレ 2016
- 【テーマ】 虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅 Homo Faber A Rainbow Caravan
- 【芸術監督】 港 千尋 (写真家・著述家/多摩美術大学美術学部情報デザイン学科教授 (映像人類学))
- 【会期】 平成 28 年 8 月 11 日 (木・祝) ~ 10 月 23 日 (日) [74 日間]
- 【主な会場】 愛知芸術文化センター・名古屋市美術館・名古屋市内のまちなか (長者町地区)・豊橋市内のまちなか (豊橋駅前大通会場など)・岡崎市内のまちなか (康生会場など)
- 【事業展開】
- ・現代美術を基軸としながら、ダンスやオペラなどの舞台芸術も展開する
 - ・まちなかでのパフォーマンスや作品展示等の展開により、賑わいを創出する
 - ・幅広い層を対象とした普及・教育プログラムを展開する
 - ・多様な主体との連携による様々な事業を展開する
 - ・県内での広域展開を図り、より多くの方々に現代芸術に触れていただける機会を創出する

■所在地

愛知県名古屋市、豊橋市、岡崎市他

■事業主体

愛知県、名古屋市、豊橋市、岡崎市
あいちトリエンナーレ実行委員会

■進捗状況

計画・構想中

■完成目標・時期

開催期間:平成 28 年 8 月 11 日 (木・祝)
~平成 28 年 10 月 23 日 (日)

■事業規模

愛知県全域

● 事業の経緯

平成 22 年	あいちトリエンナーレ 2010 開催
平成 25 年	あいちトリエンナーレ 2013 開催
平成 26 年 7 月 28 日	芸術監督決定
平成 26 年 10 月 29 日	テーマ等発表
平成 27 年 3 月 26 日	展開概要発表
平成 27 年 9 月 30 日	追加アーティスト発表

● 今後の展望・課題

あいちトリエンナーレ 2016 では、国内外の様々な地域からの多様なジャンルのアーティストが集い、「虹のキャラヴァンサライ 創造する人間の旅」というテーマのもと、先端的な現代アートによる祝祭感あふれるフェスティバルを展開する。



西尾美也
《Overall: Steam Locomotive》2010
Courtesy of the artist

カンパニー DCA / フィリップ・ドックフレ
「コンタクト」 2014
photo: Laurent Philippe



「愛故知新」～伝統を「愛」(いつく)しみ、
新しきを「知」り、文化は動く～

第31回国民文化祭・ あいち2016

問い合わせ先

愛知県県民生活部文化芸術課
(第31回国民文化祭愛知県実行委員会事務局)
〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号(自治センター9階)
TEL 052-954-6474 (ダイヤルイン)

プロジェクトホームページ

<http://aichi-kokubunsai.jp/>

● 事業の背景・目的

国民文化祭は、国民一般の各種の文化活動を全国的な規模で発表する場を提供すること等により、文化活動への参加の意欲を喚起し、新しい芸術、文化の創造を促し、併せて地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活のより一層の充実に資することを目的として、昭和61年度から毎年開催されている国内最大の文化の祭典である。

● プロジェクトの特徴・効果

平成28年秋に愛知県で開催する第31回国民文化祭・あいち2016では、愛知の多様で個性豊かな文化を見つめ直し、郷土の文化と魅力を再認識することにより、地域の文化を育て、次代に引き継いでいく意識の醸成を図るとともに、他の地域の文化との交流を通じ、新たな文化の創造、展開を促進し、愛知の文化のさらなる向上発展を図るものである。

● 計画の概要

1. 主催事業

(1) 総合フェスティバル

開会式：式典、オープニングフェスティバル

閉会式：式典、フィナーレステージ

(2) 分野別フェスティバル

文化庁事業、県実行委員会事業、市町村等事業

2. 協賛等事業

(1) 協賛事業

(2) 応援事業

■ 事業主体

文化庁、愛知県、
第31回国民文化祭愛知県実行委員会、
市町村、市町村国民文化祭実行委員会、
文化団体 等

■ 進捗状況

平成28年秋の開催に向け、総合フェスティバルの開催計画の作成等の準備を進めるとともに、分野別フェスティバルの県実行委員会事業、市町村等事業の実施に向けた調整を実施している。

また、国民文化祭の開催気運の醸成を図るため、広報活動を展開している。

■ 完成目標・時期

開催期間：平成28年10月29日(土)
から12月3日(土)

■ 事業規模

愛知県全域

● 事業の経緯

- 平成26年11月11日 愛知県が第31回国民文化祭の開催地に内定
- 平成27年2月20日 第31回国民文化祭愛知県実行委員会設立・第1回総会開催
(実行委員会の設立、会則・実施計画の構成の審議等)
- 平成27年7月21日 第31回国民文化祭愛知県実行委員会第2回総会開催
(実施計画の審議等)
- 平成27年8月24日 国実行委員会開催(文化庁)
(実施計画の承認等)
- 平成27年8月31日 実施計画の発表、キックオフセレモニー

● 今後の展望・課題

事業の準備を着実に進めるとともに、国民文化祭の開催に向けた気運を盛り上げていく。



愛・地球博のおくりもの
自然とふれあい人が交わるモリコロパーク

愛・地球博記念公園

問い合わせ先

愛知県 建設部公園緑地課
〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2
TEL.052-954-6528

プロジェクトホームページ

<http://morikoro-park.com>

■所在地	愛知県長久手市
■事業主体	愛知県
■進捗状況	事業中

● 事業の背景・目的

- ・愛知青少年公園は1970年の開園以来、青少年の健全育成はもとより、気軽に利用できるレクリエーションの場として幅広く県民に親しまれてきた。近年になって公園を取り巻く社会情勢は大きく変化し、少子化に対応する青少年健全育成環境づくりが重視されるとともに、ライフスタイルの多様化や高齢社会への対応、公園周辺の都市化にともなう防災機能の強化など、都市施設としての機能の充実が求められるようになった。
- ・そうした中、「自然の叡智」をテーマに2005年日本国際博覧会「愛・地球博」が本公園で開催されることになり、これを契機として21世紀にふさわしい公園として整備を行うこととし、2002年9月に都市計画決定が行われた。公園の一部エリアは、博覧会後にも継続的に利用する恒久施設として、博覧会の会場づくりと連携しつつ博覧会前に整備が行われている。
- ・2015年には愛知万博10周年を記念して、本公園をメイン会場として第32回全国都市緑化あいちフェアが開催された。

● プロジェクトの特徴・効果

- ・本公園の整備の基本方針は、2002年の都市計画決定に際して設定された。閉園前32年におよぶ愛知青少年公園の歴史や利用状況、園内環境の特性や、公園・緑地に対する社会ニーズ、愛・地球博開催等の背景を踏まえ、次の4つの基本方針を設定した。
 1. 博覧会の理念と成果を継承する都市公園
 2. 青少年公園の歴史を活かす都市公園
 3. 新しいニーズに対応した都市公園
 4. 多様な自然環境を育む都市公園
- ・新しい公園は、健康で精神的な豊かさと楽しさに満ち、県民と共に成長し続ける21世紀型の公園～サステイナブル・パーク～を目指す。

● 計画の概要

●計画面積 194.2ha（供用面積 149.8ha）（2015年4月1日時点）

1. ひろばのゾーン

- ・緑や水にふれながら心と身体を解放して、家族や仲間と遊び・楽しむゾーン
- ・家族や仲間と楽しむレクリエーション、健康づくりスポーツ活動空間の整備
- ・水と緑を活かした多様な交流空間の整備
- ・博覧会の成果を継承していく機能の導入
- ・防災拠点としての機能向上

2. もりのゾーン

- ・樹林や池など豊かな緑の中に身を置いて、自然とふれあい、憩い、学ぶゾーン
- ・樹林地内での野外活動や四季折々の自然とのふれあい、自然環境への理解を深める空間の整備
- ・伝統と文化を学び、ふれあう日本庭園の整備
- ・もりのゾーンに生息する多様な生物や自然環境を保全・育成

● 事業の経緯

2002年度	都市計画決定暮事業認可
2004年度	第1回「21世紀にふさわしい公園づくり委員会」開催
2005年度	「愛・地球博」開催 第1回「愛・地球博理念継承エリア検討委員会」開催 暫定基本計画および新公園名称の公表
2006年 7月	自然体感遊具、大観覧車、サツキとメイの家、日本庭園、児童総合センター、国際児童年記念館等オープン
2007年 3月	基本計画公表 温水プール、スケート場、愛・地球博記念館、茶室、林床花園、親林楽園等オープン
2008年 4月	大芝生広場（天然芝）、西エントランス広場等オープン
2009年 4月	あいちアートスクエア等オープン
7月	野球場オープン
2010年 10月	地球市民交流センター、フレンドシップ広場オープン
2012年 4月	テニスコート、フットサルコート、サイクリングコース等オープン
10月	多目的球技場オープン
2014年 6月	あいちサトラボオープン
2015年 9月	野外ステージオープン



刈谷ハイウェイオアシス

岩ヶ池公園整備事業

問い合わせ先

刈谷市都市整備部公園緑地課
〒448-8501 愛知県刈谷市東陽町1丁目1番地
TEL 0566-62-1023 (直通)

プロジェクトホームページ

<http://www.iwagaike-park.com/>

■所在地

愛知県刈谷市

■事業主体

愛知県刈谷市

■進捗状況

事業実施中

■完成目標・時期

平成40年度全体供用開始(目標)

● 計画の概要

- ・第一期区域は「さまざまな出会いの場」として、地域の人々の憩いの場となる公園施設と、高速道路利用者のサービス施設として民間活力を導入した飲食物販施設を整備し開園。第二期区域では、「人々が気軽に立ち寄れる遊びの空間」として、大型複合遊具、幼児用複合遊具、林間遊具といった遊戯施設を整備し、開園した。
- ・現在は、第二期区域内にゴーカート等の有料遊具を設置。平成26年度はミニ自動車「かも・かもポッポー」を整備し、供用開始した。
- ・第三期区域においては、岩ヶ池の湿地を活用した「花を楽しめる空間」として、また第四期区域は岩ヶ池北側に残る樹林地を保全・活用した「自然と触れ合える空間」として整備を進めていく。

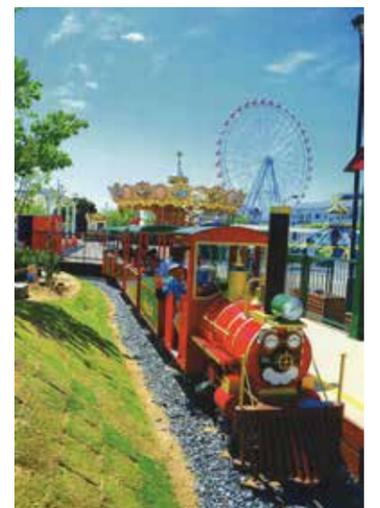
● 事業の経緯

指定管理者制度(地方自治法)、設置許可制度(都市公園法)

- 1997年 9月 都市計画決定(約39.0ha)
- 1999年 7月 都市計画事業認可
- 2004年 12月 開設(5.5ha、飲食物販施設、公園施設、健康増進施設など)
- 2006年 3月 開設(0.2ha 駐車場)
- 2007年 3月 開設(0.1ha 駐車場、便所)
- 2008年 4月 開設(4.4ha 遊戯施設、テント広場、親水広場等)
- 2009年 3月 開設(0.7ha 駐車場)
- 2013年 8月 変更都市計画決定(追加約2.4ha 全体約41.4ha)
- 2015年 3月 開設(遊戯施設)

● 今後の展望・課題

第二期区域、第三期拡張区域において、利用者の利便性の向上を目的とした駐車場の拡張整備を進めていく。



● 事業の背景・目的

- ・刈谷市北部の丘陵地に位置する「岩ヶ池公園」は、農業用ため池機能を併せ持つ岩ヶ池を含む面積約41.4haの総合公園。本公園は、伊勢湾岸自動車道に隣接した位置にあり、刈谷パーキングエリアと一体となった「刈谷ハイウェイオアシス」として、現在第一期及び第二期区域の約10.9haが開園している。

● プロジェクトの特徴・効果

- ・岩ヶ池公園は、総合公園の位置づけとして整備が進められているが、隣接して伊勢湾岸自動車道が通っていることから、「刈谷ハイウェイオアシス」として、高速道路のパーキングエリアと一体的に整備している。そのため、一般道からの利用者だけでなく、高速道路利用者も利用できる潤いのあるスペースの提供、交流と連携による地域振興の形成および産業振興等を総合的に勘案し、県内外や地域住民の憩いの場、交流の場として活用されている。
- ・都市公園法第5条の設置許可制度を活用し、様々な遊具、飲食店、産直市場などの集客施設が民間により設置、運営されている。来園者は、尾張や西三河地域を中心に、年間約840万人が訪れており、地方創生のモデル的事例としても注目されている。
- ・岩ヶ池の豊かな水面と池周辺の樹林地との一体化による地域の緑の拠点としても期待されており、さらには、これからの岩ヶ池公園は、地域特性を活かした憩いの場、環境学習の場、洲原地区の環境軸を構成する貴重な樹林地の保全、災害時の避難場所など総合公園としての機能充実が求められているだけでなく、高速道路を活用した広域交流機能の充実や広域圏域におけるレクリエーション拠点としての整備が期待されている。

刈谷城

亀城公園再整備事業

問い合わせ先

刈谷市都市整備部公園緑地課
〒448-8501 愛知県刈谷市東陽町1丁目1番地
TEL 0566-62-1023 (直通)
kouen@city.kariya.lg.jp

プロジェクトホームページ

<https://www.city.kariya.lg.jp/kurashi/sumaikankyo/koen/kouen201302191043499.html>

● 事業の背景・目的

・亀城公園は、1533年に水野忠政により築城された刈谷城があったとされる由緒ある地で、昭和12年に公園として整備された。開設から約70年以上が経過し、公園としての魅力や機能が著しく低下しており、再整備が求められていた。一方、城址公園として市民のシンボリックな公園であったことから、亀城公園が持つ歴史的価値を復元し、市民にとって郷土の歴史や文化に愛着を持っていただき、歴史のまちとしての魅力向上を目指している。

● プロジェクトの特徴・効果

・可能な限り歴史的資料に基づき、石垣を含めた城郭復元を目指している。

● 計画の概要

・刈谷城（南東隅櫓、表門、裏門、多聞櫓、石垣）の復元
・亀城公園全体の修景再整備

● 関連事業・制度

歴史博物館整備事業

■所在地

愛知県刈谷市

■事業主体

愛知県刈谷市

■進捗状況

事業実施中

■完成目標・時期

平成32年度完成目標

● 事業の経緯

2010年12月 都市計画決定
2011年3月 都市計画事業認可
2014年3月 第1工区再整備完了（園路、広場、駐車場など）

● 今後の展望・課題

2015年度に基本設計を実施。今後、実施設計を行い、整備に着手する予定。限られた文献・史料や発掘調査結果からの復元方法の検討や木材や石材などの材料の確保が課題となっている。また、市民のお城として整備するために市民意識の向上を図っていく必要がある。



油ヶ淵の自然と歴史
未来へつなぐ水辺風景の創造

油ヶ淵水辺公園

問い合わせ先

愛知県 建設部公園緑地課
〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2
TEL.052-954-6612

プロジェクトホームページ

<http://www.pref.aichi.jp/0000017784.html>

● 事業の背景・目的

- 油ヶ淵水辺公園は、愛知県で唯一の天然湖沼であり広々とした水面を持つ油ヶ淵とその周辺を含めた区域に、西三河で初めての県営都市公園として、2005年10月18日に都市計画決定されている。
- さらに、2006年3月31日には、都市計画事業認可（都市計画法第59条に規定される都市計画事業実施のために必要となる認可）を受け、事業に着手した。
- 油ヶ淵水辺公園が、自然とのふれあいの場、憩いの場および市民の協働の場となり愛着の持てる公園となるよう整備を進めている。

● プロジェクトの特徴・効果

- 油ヶ淵の自然環境を活かし、身近な自然とふれあえる憩いの場を創出する。
- 地域固有の郷土性を演出し、人々が感動できる風景を創出する。
- 多様な生物の生息環境を保全・創出し、人と自然の関係を理解する場を提供する。
- 地域の交流拠点を形成し、県民の多様なニーズに対応する場を創出する。
- 周辺農地との連携を図り、豊かな実りや農の景観を継続する。

● 計画の概要

都市計画決定および都市計画事業認可（第1期整備）区域の面積

区域		都市計画決定区域	都市計画事業認可区域
全面積（内水面）		139.9ha（63.7ha）	35.5ha（堤防を含む）
内訳	碧南市	45.2ha	14.6ha
	安城市	31.0ha	20.9ha

■所在地

愛知県安城市、碧南市

■事業主体

愛知県

■進捗状況

事業中

● 事業の経緯

- 2001年度 基本構想策定【検討委員会設置（学識者、地元代表等）】
- 2002年度 基本計画策定【検討委員会設置（学識者、地元代表等）】
- 2004年度 都市計画の素案策定
- 2005年度 都市計画決定（10月18日）、基本設計、都市計画事業認可（3月31日）
- 2006年度～ 用地測量、用地買収
- 2007・2008年度 ワークショップ
- 2009年度 県民協働事業
- 2010年度 施設整備

■ 都市計画決定および都市計画事業認可（第1期整備）区域図



ふるさとと自然を感じよう、穂の国で！

東三河ふるさと公園

■所在地	愛知県豊川市
■事業主体	愛知県
■進捗状況	事業中

問い合わせ先

愛知県 建設部公園緑地課
〒460-8501 愛知県名古屋市中区三の丸3-1-2
TEL.052-954-6612

プロジェクトホームページ

<http://aichi-koen.com/furusato/>

● 事業の背景・目的

・東三河ふるさと公園は、計画地の持つ良好な自然環境を生かし、地域の歴史、文化、自然を紹介するとともに、郷土の風景を後世に伝えることをテーマとし、良好な自然環境の保全を図ると同時に多様なレクリエーション活動、健康の増進、自然とのふれあいの場の提供を目的とした公園を目指している。

● プロジェクトの特徴・効果

- ・旧東海道の御油宿などに見られる近隣郷土の自然環境や歴史・文化等を後世に継承する。
- ・多様なレクリエーション活動や自然とのふれあいの場となる。
- ・広域防災活動拠点として、救援物資の集積など、防災上重要な役割を果たす。

● 計画の概要

・計画面積 174.8ha（供用面積 124.3ha）（2015年4月1日時点）

1. 修景庭園

東三河地域の自然や歴史、文化を紹介するゾーン。三河湾に見立てた池があるほか、水路で豊川を表現している。池には竹島をイメージした島もある。

2. 三河郷土の谷

ビオトープで東三河地域の植物を紹介している。

3. 三河遊び宿…

東海道の宿場町をテーマにした施設で、遊具や大きな滑り台などがある。

4. 三河山野草園

修景庭園と展望ツツジ園の間にある山野草園。山野草や薬草などが多数植えられている。

5. ピクニック園地

頂上付近にある広場。滑り台やアスレチックなどの遊具も整備されている。

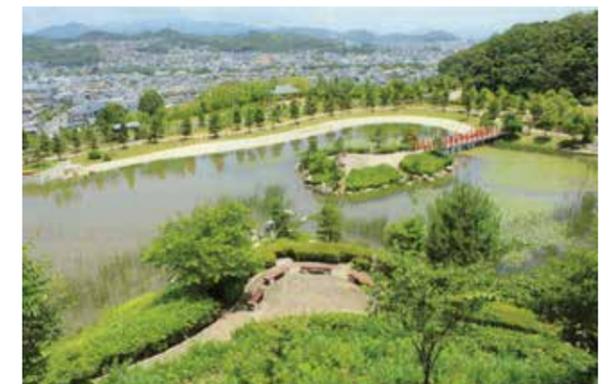
6. 展望ツツジ園

頂上にある広場には展望台が設置されている。また、周辺にはツツジが植栽されている。

● 事業の経緯

1991年度	基本構想策定
1992年度	基本計画策定
1993年度	測量、基本調査
1994年度	基本設計、都市計画決定（12月、9月）
1995年度	都市計画事業認可（第一期区域…126.5ha）
2005年度	第一期区域北側開園（62.4ha）
2007年度	都市計画事業認可（第二期区域…48.3ha）
2008年度	第一期区域南側開園（64.1ha）
2009年度～	第二期区域用地買収着手

■ 東三河ふるさと公園（修景庭園）



■ 東三河ふるさと公園（全体図）



匠文化の原点が、今蘇る。

名古屋城本丸御殿の復元

問い合わせ先

名古屋市 市民経済局名古屋城総合事務所
〒460-0031 名古屋市中区本丸1番1号
TEL.052-231-1700

プロジェクトホームページ

http://www.nagoyajo.city.nagoya.jp/honmarugoten/O1_about/index.html

● 事業の背景・目的

- ・名古屋城本丸御殿は、1945年に空襲で焼失したが、文献や実測図・古写真・障壁画などは焼失を免れた。本丸御殿の復元工事は、こうした豊富な資料をもとに忠実に復元することが可能。
- ・かつて城郭として国宝1号に指定され「近世城郭御殿の最高傑作」と言われた名古屋城本丸御殿を復元する。

● プロジェクトの特徴・効果

(1) 復元方針

本丸御殿の歴史的意義を踏まえ、焼失前と同等の文化的価値を有するとともに広く市民が活用でき、市民の財産となるように、3期10年の工期で総事業費約150億円をかけて本丸御殿を復元するものとする。

(2) 復元手法

焼失前の本丸御殿と同等の歴史的文化的価値を有する建物を再現するよう、原則として旧来の材料・工法による、旧状再現を図るものとする。なお、現代の技術や生産事情、活用方法や維持管理も考慮して取り組むこととする。

(3) 復元時代設定

将軍の上洛に伴う上洛殿が増築されることにより本丸御殿の格式が最も高まった寛永期（1624-1644）とする。

■所在地

愛知県名古屋市中区

■事業主体

名古屋市

■進捗状況

工事中

■完成目標・時期

2017年度

■事業費

約150億円

● 計画の概要

建築概要

- ・構造・回数 木造平屋建（武家風書院造）
- 延べ面積 約3,100平方メートル
- 建築面積 約3,600平方メートル

・主な部屋、主な障壁画

玄関

外観は、車寄の唐破風のデザインが特徴。本丸御殿を訪れた人がまず通され、取次を待つ建物。

一之間、二之間からなり、床の間や壁、襖は金地に虎が描かれ、虎の間とも呼ばれた。

障壁画「竹林豹虎図」等

表書院

外客を応接する公式の客間として、武家が最も格式を重んじた建物。

松やキジなど花鳥画で飾られた。

障壁画「桜花雉子図」等

対面所

内臣との対面等、内々の謁見の場として使用。くつろいだ雰囲気を作るため、襖や障子には庶民の生活が描かれた。

障壁画「風俗図」等

上洛殿

壁や天井に絵が描かれ、彫刻欄間も用いられるなど、本丸御殿で最も豪華に飾られた建物。将軍上洛の際の宿館として増築されたことから、御成御殿とも呼ばれた。

障壁画「帝鑑図」等

● 事業の経緯

- | | |
|---------|-------------------------|
| 1992年度 | 本丸御殿障壁画復元模写開始 |
| 2002年度 | 「名古屋城本丸御殿積立基金」設置 寄付募集開始 |
| 2006年度 | 基本設計 |
| 2007年度 | 実施設計 |
| 2009年1月 | 本丸御殿復元工事着手 |
| 2013年5月 | 玄関・表書院等公開 |

● 今後の展望・課題

- | | |
|--------|-------------|
| 2016年度 | 対面所・下御膳所等公開 |
| 2018年度 | 全体公開 |



人と自然をつなぐ懸け橋へ

東山動植物園 再生プラン

問い合わせ先

名古屋市 緑政土木局東山総合公園再生整備課
〒464-0804 愛知県名古屋市千種区東山元町 3-70
TEL.052-782-2111

プロジェクトホームページ

http://www.higashiyama.city.nagoya.jp/16_evolution/index.php

● 事業の背景・目的

- ・東山動植物園の再生は、単なる動植物園の改築ではなく、「環境」と「大交流」を展開していくフィールドを形成する事業である。
- ・動植物園の4つの役割である展示、環境教育、種の保存、調査研究を展開することにより、自然のすばらしさや大切さを体験・体感し、併せて、市民の様々なニーズに対応した楽しみを提供することで、東山動植物園は「人と自然をつなぐ懸け橋」に生まれ変わることを目標とする。
- また、市民が誇れる動植物園として本市の観光拠点となることも目指している。

● プロジェクトの特徴・効果

- ・東山動植物園が、人と自然をつなぐ場となるためには、さまざまな垣根を取り払い、生まれ変わる必要がある。そのため、次の6つの基本方針を定めている。
- 1. 「見るもの」と「見られるもの」の垣根の除去
- 2. 希少動物の「保護」と「増殖」への貢献
- 3. 「娯楽」と「学習」の両立
- 4. 「動物園」と「植物園」の融合
- 5. 「東山の森」と「動植物園」の一体的活用
- 6. 「市民」と「行政」との協働

● 計画の概要

「環境」と「大交流」を展開していくフィールドを形成し、「人と自然をつなぐ懸け橋」に生まれ変わることを目標に、東山動植物園を再生する事業

■ 所在地

愛知県名古屋市千種区

■ 事業主体

名古屋市 緑政土木局東山総合公園再生整備課

■ 進捗状況

事業中

■ 完成目標・時期

2036年度

■ 事業費

約350億円

● 事業の経緯

- 2006年6月 「東山動植物園再生プラン基本構想」策定
- 2007年6月 「東山動植物園再生プラン基本計画」策定
基本計画策定後から個別施設設計に取り掛かり、2008年度から整備に着手
- 2010年5月 「東山動植物園再生プラン新基本計画」策定
- 2010～2014年度第一期整備
アジアゾウ舎を始めとした展示施設、休憩所・トイレなどのサービス施設及び東山の森を整備
民設民営による営業施設の導入
重要文化財温室前館の保存修理工事（第1期）の着手
- 2015年度～ 第二期整備として、新ゴリラ・チンパンジー舎（アフリカの森）の整備に着手

● 今後の展望・課題

第二期整備の5年間（2015～2019年度）で、新ゴリラ・チンパンジー舎（アフリカの森）などの展示施設の整備を始め、重要文化財温室前館など歴史的文化施設を保全し活用していくほか、営業施設やサービス施設などの整備によってにぎわいのある快適な園内空間を創出する。

また、動植物園の重要な役割である環境教育や調査研究、種の保存についても引き続き取り組んでいくとともに、市民等との協働による東山の森づくりをさらに進める。

過去から現在までの滋賀ならではの多様な美の魅力を発信する拠点として滋賀県立近代美術館を再整備

新生美術館整備事業

問い合わせ先

滋賀県総合政策部文化振興課 新生美術館整備室
〒520-0026 滋賀県大津市京町4丁目1-1
TEL 077-528-3346

プロジェクトホームページ

<http://www.pref.shiga.lg.jp/kakuka/a/kikaku/binoshiga/newmuseum/newmuseum.html>

■所在地

滋賀県大津市南大萱町 1740-1
(びわこ文化公園(文化ゾーン)内)

■事業主体

滋賀県

■進捗状況

建築工事および公園整備工事の設計検討中
(設計者: SANAA 事務所)

■完成目標・時期

2019年度(平成31年度)まで

■事業費・事業規模

想定整備工事費: 52億円
(美術館整備47億円・公園整備5億円)
整備予定延床面積: 約15,200㎡
(近代美術館改修8,544㎡、新館増築約6,700㎡)

■SANAA 事務所による設計提案イメージ



●事業の背景・目的

これまでの県立近代美術館の老朽化・狭隘化等に対応するとともに、神と仏の美(仏教美術等)やアール・ブリュットをはじめ、滋賀の特色ある美の魅力を次代に伝え、発信する拠点として、美術館の再整備を行う。

●プロジェクトの特徴・効果

- ・文化財から最新の現代美術まで、分野を横断的に結び、SANAA 建築の新たな建物と併せて、多くの来場者に新たな魅力・体験を提供
- ・観光、産業、教育、福祉などの分野との連携を進め、経済・社会面での幅広い波及効果を生み出す

●計画の概要

新生美術館基本計画(2013年12月策定)に基づく滋賀県立近代美術館の再整備

●事業の経緯

2012年2月 「美の滋賀」発信懇話会報告書等において新生美術館整備の方向性が示される

2013年12月 新生美術館基本計画策定

2014年3月 公募型プロポーザルにより設計者としてSANAA事務所を選定

基本設計着手

●今後の展望・課題

2020年の東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムにおける拠点施設として機能できるよう、2019年度までの完成を目指して、整備を進める

(仮称)彦根総合運動公園整備事業

問い合わせ先

滋賀県総合政策部国体準備室
〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号
TEL 077-528-3323

プロジェクトホームページ

<http://www.pref.shiga.lg.jp/a/kikaku/kokutai/syukaijouseibi.html>

● 事業の背景・目的

第79回国民体育大会、第24回全国障害者スポーツ大会（平成36年開催）の開・閉会式および陸上競技会場となる県立彦根総合運動場を、第1種陸上競技場を備えた公園に再整備する。

● プロジェクトの特徴・効果

県民のスポーツ拠点として機能を強化するとともに、世代をこえて人々に長く愛着を持って利用される多様な機能を備えた公園として、彦根城をはじめとする周辺の景観などと調和を図りながら再整備する。

● 計画の概要

公園に導入する主な施設は、第1種陸上競技場、第3種陸上競技場、庭球場、野球場（現有施設を存置）を計画している。現有施設の敷地（約14ha）に隣接地約8haを加え、全体敷地を約22haまで拡張する。

● 事業の経緯

平成26年6月に県立彦根総合運動場が国体主会場に選定されて以降、外部有識者による検討懇話会での検討、住民説明を経て、公園整備に関する基本構想や基本計画を策定するとともに、公園や陸上競技場の整備計画の検討に必要な各種調査も実施してきたところ。

● 今後の展望・課題

平成29年度末までに拡張予定の敷地を取得し、平成29年度末までに公園整備に関する設計、そして平成30年度末までに第1種陸上競技場に関する建築設計を終え、平成33年度末までに整備を終える計画である。

■所在地

滋賀県彦根市松原町地先

■事業主体

滋賀県

■進捗状況

平成27年3月公園整備基本構想の策定
平成27年8月公園整備基本計画の策定
現在、公園整備基本設計実施中

■完成目標・時期

平成33年度末公園整備完了予定

■事業費・事業規模

概ね180億～200億円程度
敷地全体面積 約22ha

■基本計画図

